

土砂災害に備えて

松浦市消防本部は、11月24日と25日の2日間、松浦建設株式会社（上迫秀人代表取締役）の協力のもと、土砂災害の発生に備えて救助訓練を実施しました。

24日の訓練には、救助隊8名と同社の4名が参加し、大雨に伴う家屋倒壊や土砂崩れに巻き込まれた事故を想定し、スコップや重機を使った被災者の救出方法を確認しました。また、被災者の周囲を板で囲み、救助中の二次災害や事故を未然に防ぐ方法などを、繰り返し訓練しました。



宮中献穀事業 献穀記念米を贈呈

宮中献穀松浦市奉賛会は11月16日、長崎県知事へ宮中献穀米の献納報告を行いました。

献穀米は、11月23日に開催された、宮中祭祀・新嘗祭（収穫への感謝と翌年の豊穡を祈願する宮中行事）に献上されました。

この日は、献穀者である松本元行さんと、耕作長の太田黒正司さんが県庁を訪れ、献納報告とともに、10月に1粒ずつ選別し今福神社で清祓いを済ませた献穀記念米を贈呈しました。

県庁を訪問した松本さん（中央）と太田黒さん（左から2人目）



優良な従業員を表彰

第33回勤労者の祭典（松浦市商工業労政推進協議会主催）が11月25日、文化会館で開催されました。

この祭典では、毎年長きにわたり事業所に勤務されている優良な従業員を表彰しています。今年も、勤続20年以上の6人、15年以上の3人、5年以上の1人の合計10人が表彰を受けました。

優良従業員表彰式では、受賞者を代表し松本清哉さん（中興化成工業株式会社）が謝辞を述べました。（写真）



バス停にベンチを寄贈

吉永光子さん（志佐・白浜団地）は、日前バス停（志佐・白浜免）にベンチ2台を寄贈しました。

以前から同バス停周辺を自主的に清掃している吉永さんは今年9月、2度の台風で停留所のベンチが破損していることを発見。お年寄りや子どもたちがバスを待つ際に使用してほしいと、自費で購入しました。

吉永さんは「バスを待つだけでなく、駅伝の応援等にも地域の人が使う。大事に使ってほしい」と話してくれました。



養殖トラフグが給食に登場

新松浦漁業協同組合は、松浦の養殖トラフグを身近に感じてもらいたいと、市内全小中学校の児童・生徒にトラフグのから揚げを振る舞いました。

この取り組みは、生産量全国1位である松浦市の養殖トラフグを子どもたちに知ってもらいたいと、平成25年から始まりました。

御厨小学校では11月27日に提供され、5年生29人が、生産者から松浦市が養殖トラフグの産地であることや養殖方法などの説明を受けた後、地元のトラフグを味わいました。



鷹島で水産教室

県主催の水産教室が11月25日、鷹島小学校の5年生21名を対象に新松浦漁業協同組合鷹島支所荷捌所で開催されました。

この教室は、漁業の担い手確保や育成を支持する事業の一環として毎年開催されています。

児童たちは、漁に使うロープの結び方やマグロの養殖について学んだ後、トラフグの歯切りを見学。講師からのクイズに答えるなど、楽しみながら学習しました。

教室の最後には、包丁を使って魚のさばき方や調理方法を学習し、地元の魚を味わいました。



大しめ縄が奉納されました

笛吹神社例大祭が12月6日に行われ、大しめ縄が奉納されました。

大しめ縄作りは、人手や手間を要する作業で、毎年地区の住民が協力しあい、江戸時代から守り続けられている伝統行事です。

この日は、^{うどまぶし}烏渡伏地区、^{ひかくし}笛吹・日隠地区の住民約30人が稲わらを持ち寄り、長さ約7疋、重さ約300キログラムの大しめ縄を完成させ、鳥居の傍に立つマキの木の間に張られました。



消防団活動を支援する協定を締結

松浦商工会議所（稲沢文員会頭）と市は12月2日、消防団活動の充実強化に向けた支援に関する協定を結びました。

この協定は、各事業所が従業員に対し、消防団活動のための勤務配慮や入団呼びかけを行い、市が協力事業所を公表、表彰する取り組みで、消防団員の確保と活動を円滑に進めることを目的としています。

協定を結んだ稲沢会頭は「近年は災害が多く、行政だけの働きでは安全安心な暮らしは実現できない。我々も協力したい」と話しました。

